

寄贈図書リスト

日本の小惑星命名宝鑑

小惑星会議, A4判, 約600p, 12,000円(税込), 小惑星会議(自費), 研究資料

コスミック・クエスチョン宇宙の謎を解く

リチャード・モーリス著, 和田純夫, 和田美智子共訳, A6版, 244p, 2,000円(税別), 丸善, 解説書

BLACK-HOLE ACCRETION DISKS

加藤正二, 福江純, 嶺重慎共著, A5判, 594p, 7,089円(税別), 京都大学学術出版会, 専門書

月報だより

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員(ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7. 提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先, (2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他(待遇など)

名古屋大学大学院理学研究科
素粒子宇宙物理学専攻教員

1. 助教授 1名
2. 天体物理学研究室
3. ミリ波・サブミリ波による星間分子雲と星形成過程の観測的研究を行う。特に, チリ国ラナス・カンパナス山に設置した「なんてん」電波望遠鏡に関する観測研究と機器開発を強力に推進できる方。
5. (1) 1999年4月1日
7. 履歴書, 研究歴, 研究業績の概要(2000字以内), 業績リスト, 研究計画(2000字以内), 主要論文別刷, 推薦書または応募者について照会可能なもの2名の氏名と連絡先。
8. 1998年6月1日(月)必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科
物理学教室主任 松浦民房
(2) 同教室 天体物理学研究室 福井康雄
TEL : 052-789-2837
FAX : 052-782-3951
10. 書類はA4用紙を使用し, 封筒に「助教授応募書類在中」と朱書きすること。

1. 講師 1名
2. 宇宙物理学研究室
3. 人工衛星やロケット, 大気球等の飛翔体を用いたスペースからの赤外線観測により, 星, 銀河や宇宙の形成と進化の研究を行う。特に2003年打上げ予定の赤外線天文観測衛星ASTRO-F(IRIS)に搭載される遠赤外サーベイ観測装置の開発に中心的役割を果たすとともに, 大学における教育研究に熱意を持って取り組む方を希望する。
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
7. 履歴書, 研究歴, 研究業績の概要(2000字以内), 業績リスト, 研究計画(2000字以内), 主要論文別刷, 推薦書または応募者について照会可能なもの2名の氏名と連絡先。
8. 1998年6月1日(月)必着
9. (1) 〒464-8602 名古屋千種区不老町
名古屋大学大学院理学研究科
物理学教室主任 松浦民房
(2) 同教室 宇宙物理学研究室 芝井 広
TEL : 052-789-2452
FAX : 052-789-2919
10. 書類はA4用紙を使用し, 封筒に「講師応募書類在中」と朱書きすること。

天文情報公開センター助手

1. 助手1名
2. (1) 天文情報公開センター
(2) 東京都三鷹市
3. 国立天文台では, 野辺山電波望遠鏡やすばる望遠鏡などから得られる最新の天文学成果を, 社会に広く公開して, 国民と共有する知的財産にしたいと, 積極的に取り組んでいます。このため, 天文情報公開センターが設立されますが, その若手のスタッフを公募します。研究分野は問いませんが天文学の研究歴があり, 自身の研究を推進しながら下記のいずれかの仕事(複数にわたるも可)を担当することが可能な若手の研究者を募集します。
天文学成果の情報公開(マルチメディアやインター

ネットを通じた研究成果の公表、講演会の開催)、社会教育用望遠鏡等を使っての天文普及や公共天文台との連携活動、一般社会から寄せられる様々な天文情報及び質問に対する対応、暦計算又は歴史的天文資料の整理・解析など

5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院修士課程修了、またはそれと同等以上の方
7. (1) 略歴書 (最近の写真を添付), (2) 研究歴 (これまでの研究内容の概要を含む), 及び, 上記の当センターの仕事に関連した活動実績があれば記すこと, (3) 研究論文リスト (査読論文とそれを区別し, 共著の主要論文には役割分担を記すこと) および主要論文別刷, (4) 研究計画書及び当センターにおける活動計画書, (5) 本人について意見を述べられる人2名の氏名と連絡先, (6) 他薦の場合は推薦書の他に, 前記事項 (1)~(5)の概要がわかる書類
8. 1998年6月1日(月)必着
9. (1) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台長 小平桂一
TEL: 0422-34-3650
(2) 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
国立天文台 企画調整主幹 観山正見
TEL: 0422-34-3738
10. 封筒の表に「天文情報公開センター助手人事応募書類在中」と朱記し、郵送の場合は簡易書留でお送り下さい。選考は国立天文台運営協議委員会において行います。

東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻教官

1. 公募人員: 教授 1名
2. 所属: 東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻太陽地球系物理学大講座
3. 専門分野: 太陽地球系物理学
5. 着任時期: 決定後できるだけ早い時期
6. 応募資格 (公募の対象): 太陽地球系物理学を研究する人であって、教育にも意欲のある人を望みます。
7. 提出書類: (1) 略歴書 (学歴および職歴), (2) 業績目録 (レフリーのある論文と、それ以外の総説等に分けて下さい。), (3) 主要論文3編の別刷またはコピー, (4) 他薦の場合は推薦状, 自薦の場合は応募者に関する所見を頂ける2~3名の方の氏名と連絡先 (住所, 電話, 電子メール等), (5) 自薦・他薦ともに、今後の研究計画・抱負などを2,000字程度で書いて下さい。
8. 応募・推薦締切: 平成10年5月29日(金)必着
9. 提出・問合せ先:
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院理学系研究科

地球惑星物理学専攻
専攻長 山形俊男
Tel: 03-3812-2111 内 4297
Fax: 03-3818-3247

10. 応募上の注意: 応募書類の封筒には「教官応募」と朱書きし、簡易書留で郵送して下さい。

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果 (前所属)
3. 着任時期

名古屋大学太陽地球環境研究所教官

1. 第90巻8号
2. 藤木謙一
3. 1998年2月1日

研究会・集会案内

第20回宇宙ステーション利用計画 ワークショップ開催計画

開催日時: 平成10年6月30日(火) 9:30~17:00
7月1日(水) 9:30~17:00

開催場所: 砂防会館 シェーンバッハ・砂防

(住所: 東京都千代田区平河町 2-7-5)

会合の内容: 宇宙開発事業団に設置された宇宙環境利用研究委員会 (委員長: 菅野卓雄), 宇宙環境利用システム (システム長: 井口洋夫) が中心になって開催し, JEM 利用の具体的内容について JEM 等ユーザー及び JEM 利用に関心を持つ研究者と意見交換を行う。

主催者名: 科学技術庁・宇宙開発事業団

協賛・後援団体名: 22の学会の協賛 (予定)

参加費: 無料 詳細問い合わせ先:

(財)宇宙環境利用推進センター 調査研究部

担当: 大橋永嗣

〒169-8624 東京都新宿区西早稲田 3-30-16

TEL: 03-5273-2442 FAX: 03-5273-0705

第23回光学シンポジウムのお知らせ

開催日: 1998年6月25日、26日

場所: 東京大学・生産技術研究所・第一会議室

主催: 日本光学会 (応用物理学会)

テーマ：光学系および光学素子の設計、製作、評価を中心として

参加費：日本光学会会員 3,000 円、協賛・賛助学会員 4,000 円、学生会員 無料、非会員（一般 6,000 円、学生 1,000 円）予稿集代を含みます。事前の参加申し込みは不要です。当日、受付にて参加費をお支払い下さい。

問い合わせ先：

〒140-8601 東京都品川区西大井 1-6-3
(株)ニコン 光学技術開発部 ^{げんま} 玄間隆志
TEL：03-3773-1107 FAX：03-3775-5934
E-mail：gemma@nikon.co.jp

研究助成

地球化学研究協会学術賞「三宅賞」

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金（30 万円）をそえます。
3. 本賞の贈呈は、1 年 1 件（1 名）とします。
4. 規定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（400 字程度）、主な論文 10 編程度に略歴をそえて、協会事務所までお送り下さい。

研究助成

1. 研究助成は地球化学の研究者で、海外における学術調査研究などに参加する者、ならびに海外のシンポジウム等に出席し論文を発表する者に対して行われます。
2. 助成金は 1 件 10 万円とし、年に数件とします。
3. 規定の用紙に推薦候補者（各締切日において満 40 才迄とする）の海外調査に関しては、略歴、研究業績、調査地（国名、地域名）、調査目的・計画、推薦理由、同行者などを記入し、海外のシンポジウム出席については、略歴、研究業績、国際会議名（主催団体、開催場所、開催年月日）、論文題目、推薦理由等を記入して、協会事務所までお送りください。

★三宅賞の贈呈および研究助成者の発表は、1998 年 12 月 5 日（土）、東京で行います。

申込締切日は、三宅賞は、1998 年 8 月 31 日

研究助成は、第 1 回締切 1998 年 8 月 31 日

第 2 回締切 1999 年 1 月 15 日

* 申込用紙の必要な方は、日本天文学会事務室までお申し出下さい。

地球化学研究協会

〒166 東京都杉並区高円寺北 4-29-2-217

電話：03-3330-2455（FAX 兼用）

会務案内

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規*に基づき、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（1998 年度第 3 期）致します。

1. 援助金総額 年間 200 万円（1998 年度）
2. 援助件数 年間数件程度
3. 募集対象期間 1998 年 7 月 1 日～9 月 30 日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（少なくともコピーの分は A 4 紙に統一すること）

原本 1 部、コピー 5 部。書類（特にコピーの分）に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意下さい。

- (1) 応募用カバーシート（第 91 巻 5 号 244 頁の応募用紙を A 4 に拡大コピーして使用する）。なお、渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。
- (2) 論文リストを含む研究業績
- (3) 観測については、観測割当通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
- (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
- (5) 研究会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
- (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
- (7) 航空運賃の見積書
- (8) 関連研究論文の写し（一編）
5. 応募締切：1998 年 6 月 10 日必着
6. 決定時期：1998 年 6 月下旬
7. 応募書類送付先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内

日本天文学会 早川基金募集係

* 早川基金内規（社団法人日本天文学会定款参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として 35 歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。

* 1998 年はこの後、9 月 10 日締め切りで 1998 年 10～12 月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

* 援助者には、帰国報告書の提出をお願いします。

早川基金応募カバーシート

(本頁をA4に拡大コピー・記入して、応募用紙の最初に添付して下さい)

氏名	(会員番号：)		生年月日	19 年 月 日 (歳)	
所属	身 分	大学院 (修士・博士) 課程 年生			
援助希望の内容		(観測・国際共同研究・国際研究集会) その他 [] 研究生・学振 (PD・DC) (常勤・非常勤) 職員 [職名：]			
渡航期日		年 月 日～ 年 月 日		その他 []	
渡航期間：		渡航場所		渡航費見積金額： 円	
研究略歴					
渡航歴および旅費の出所：					
渡航の主旨：					
国際研究集会についての寄与：1. 口頭発表, 2. ポスター, 3. その他 []					
連絡先		TEL		FAX	

年会案内

1998年秋季年会は10月1日(木)～3日(土)まで山形大学で行う予定です。

1999年春季年会は京都大学です(3月下旬の予定です)。



東京都 大森幸子

その他

日本アマチュア天文研究発表大会を終わるに当たり

日本アマチュア天文研究発表大会運営委員会

1967年発足した「日本アマチュア天文研究発表大会」は本年で30回を重ねたが、これを最後として解散することと決定しました。発足当時は参加者300名を超え、研究発表も30題に及び、「アマ天大会」の愛称をもって全国の天文アマチュアに親しまれて来たが、20回を過ぎる頃から次第に参加者も研究発表も減少し、開催地の委嘱も困難となって来たので、運営委員会は「アマ天の将来を考える会」を数次に亙り開催し、検討の結果、これも時流による為と悟り終結を決定しました。その主な理由は、天文アマチュアの専門部門の研究会への結集です。現在までの開催地は次の通り 川崎(5回)諏訪(2回)仙台 明石(2回)岐阜 札幌 宇都宮 山口 東京(2回)徳島 富山 福岡 滋賀(2回)福島 京都(2回)高松 金沢 浜松 広島 館林 海老名 と全国に及び、開催地の方々には一方ならぬ御努力を頂き感謝の念に耐えません。また専門家の先生方にも御指導、御教示を賜り厚く御礼申し上げます。

当運営委員会は「アマ天大会」開催にとまらず、「日本星空を守る会」を結成して全国的に活動したり、「日本アマチュア天文史」の編纂を成し遂げました。然しもう一つ成さねばならぬ事があります。それは全国に散在する先人達の遺した貴重な天文資料の散逸防止です。この為「日本天文資料センター」を作り、天文資料の全国的調査に着手しました。先ず所在確認の為、関係者に依頼してリストを作りつつあります。将来はこれらを集集整理して必要に応じて活用出来るような場所を得たいと願っています。これにはプロ、アマの区別はなく、また膨大な経費を要する事ですから、関係機関の協力を切に期待しております。当運営委員解散後は天文普及や全国天文アマチュアの親睦の場を失う事になりますが、幸い若い人達数名が何らかの形で全国集会を作ろうと現在努力中ですので、それに期待するのみです。

(文責 森久保)

星空市場

〈意見〉

日本天文学会へのお願い

I) 準会員にも何らかの発言権を与えること

日本で働く外国人労働者は日本国籍がないため選挙権・被選挙権を持ちません。しかし所得税・住民税は日本人と同じく給料から差し引かれています。それで彼等にも選挙権を与えるべきだという声が日本人の中からも出てきました。

ところでわが日本天文学会においては準会員には評議員の選挙権がありません。学会の運営は正会員のみで行なう、準会員に口出しされたくない、ということでしょうか。しかし準会員は単なる天文月報購読者ではないでしょう。天文学を愛し、学会の研究活動を支援するシンパです。準会員も学会の運営にいろいろな意見を持っています。会員である以上、準会員の利益代表を選出する権利があります。

天文学は今やビッグサイエンスに成長し、多大な国家予算によって支えられています。NASAはtax payersの理解を得るため、マスコミを通じて涙ぐましいほどの努力をしているではありませんか。日本でもパオネットの輪はますます拡大する動きを見せています。学会も準会員を閉め出すのではなく、天文学の進歩と普及に向けて共存の道を探るべきでしょう。

II) 準会員という名称を替えること

準会員という呼称は正会員(正式な会員)に準ずるという意味であり、差別的であり感じのいいものではありません。中にはプライドを傷つけられたように感じて憤慨する人もおられます。準会員は会員であるようなないような、宙ぶらりんな存在です。以前の特別会員・通常会員という呼称の方がまだましでした。プロ会員・アマ会員あるいは専門会員・市民会員などとするのもいいでしょう。再検討をお願いいたします。

佐藤明達(東京都)